



茨 歯 会 報

No.584

茨城県歯科医師会
Ibaraki Dental Association

February
2018
平成30年

2



Contents

デンタルアイ	1
村居 幸夫	
理事会報告	3
会務日誌	5
地域保健委員会だより	7
医療管理委員会だより	13
警察歯科協議会だより	17
寄稿	19
権名 和郎	
ピンクのエプロン	21
山本 真代	
リレー通信	22
野沢 正仁	
成年登場	24
会員の異動	40
国保組合 NEWS	41
赤えんぴつ	42

表紙写真について

霞ヶ浦ふれあいランド付近の湖畔にて冬の太陽が対岸に沈もうとする頃、4羽の白鳥の親子(?)が暗くなってくる中、ねぐらに向かうのでしょうか、静かに滑っていきました。

この付近はサイクリングもウォーキングもバードウォッチングも楽しめます。

(社)鹿行歯科医師会 出久根 崇夫

2018年の希(のぞみ)



常務理事
村 居 幸 夫

昭和23年生まれは今年で70歳、古希を迎える。私も8月に70歳になるが、まだまだ元気である(と、思っている)。患者さんとの話でも「118歳まで生きるから、100歳くらいまでは歯科医業を続けるよ。」と言っている。日野原先生をお手本にそこまで現役生活が出来るようなら、趣味であるゴルフでエージシュートが出来るかとの願いがこもっている。何故、この話になったかという、正月2日に来客があり、翌3日で78歳になるというこの方が昨年、75というスコアでエージシュートを達成したと聞き、私もトレーニングを積んで挑戦してみようと思ったからである。また1月中旬に兄弟で昼食会を開催した際にも、3歳年上の兄から同級生が71というスコアでエージシュートを達成したと聞き、さらにその思いは強くなった。私の実力では『運』も必要だと分かっている。そして『運』も実力の内と言われるとチョット心もとない。というのもいまだホールインワン(ピンに当たった事は2度あるが…)もしていないし、宝くじ・穴馬券にも当たった事はない。運の強い方ではないからである。自分の実力と運を勘案すると困難な目標かもしれないが、目標無しでのゴルフより、目標を持ったゴルフのほうが楽しいと思う。プレー回数は以前よりだい

ぶ少なくなっているが、それでも年に20ラウンドはプレーしているし、時間を融通すれば更に10~20ラウンドは多くプレー出来るだろう。日頃のトレーニングとプレー数を増やせば目標に近づけると思っている。

幸い歯は丈夫で“むし歯ゼロ”を保っている(母親からの遺伝に感謝)。このままなら“8020”は間違いなく達成可能であろう。酒は控えめにしているし、もう一つの趣味である料理の腕を上げて、自分の健康を守ることも考えている。レパートリーというよりこだわりはインド風カレー、鰻巻き卵、厚いステーキの焼き方、煮豚、ジンギスカンのタレの味、肉や魚のヨーグルト入り味噌ダレなどだが、茨城風のため愛妻(?)にはあまり評判が良くない。茨城風はやはり塩味が強いようで、私の血圧もやや高めである。それでも生野菜を食べるときは出来るだけ塩分を控えているし、体重は73Kgを超えないように気を使っている。いかんせん体型だけは重力に逆らえないのが現状であるが、小太りのほうが長生きするというテレビ番組を観たような気もする。健康長寿によってエージシュートの達成確率も高くなるだろう。もしかするとホールインワンも夢ではない。さらに宝くじや穴馬券も当たるかも…と考える。孫の成

長も楽しみだし、成人式後に酒宴でも出来れば言う事は無い。願いは果て無く続きそうだが人生それほど甘くはないだろう。人の人生は＋－ゼロ、良いこともあれば悪いこともあるのが普通である。

とここまでは平成30年の年頭に頭に浮かんだことを書き連ねたが、ここからは茨歯会の歯科医療電話相談担当者からのお願いを書かせていただく。

電話相談は毎月第一、第三木曜日の午後2時～5時まで受け付けており、平成28年度（H28年4/1～H29年3/31）の電話相談件数は延べ82件であった。その他に直接茨歯会事務局に電話があったり、当該歯科医院から報告書として提出されるものもある。FMC・MC・有床義歯関連が39件と多く、インプラント、CR充填、矯正、外科処置と続くが、相談のみも23件と多くなっている。その中にはCTやマイクロスコープを使用した診査や治療に対し、高額な請求をされたというものもあった。保険診療を行っている場合のそれらの機器使用に関しては十分に留意して欲しい。患者さんの権利意識も高くなっていくし、ネット上での知識も私たちが考える以上に高くなっていくことを覚えておいて欲しい。歯科医師、スタッフと患者さんが互いに協力することで治療効果が上がるという事を念頭に置き、常に良い関係を保つように心がけましょう。仕事は適度な緊張感を持ちつつ、楽しく

やった方がストレスも少なく、インシデントの発生率も下がってきます。また多くの場合、前医への批判は問題を悪い方向へ進行させます。前医が診療した時の患者さんの状態と、現在診療している歯科医師が見ている状態との間には時間経過があることを忘れず、安易な発言はしないことを心掛けて下さい。患者さんとのやり取りで問題になるのは医療側の『説明した』、患者さん側の『説明されてない』というものです。説明内容は要点を必ずカルテに記載します。プリントされたカルテへの手書きでの記載は避けてください。これはカルテの改ざんと取られかねません。

患者さんとの間で問題が発生した場合は早期に対応することも重要です。まず複数人数の立ち合いのもと、話し合う場を設け、資料を開示して冷静に説明しましょう。相手に誤解を与えたと思われるときはその点について謝罪したほうが良いでしょう。ただし金銭的要求には安易に同意しないことも重要です。相手側の態度、言葉遣いに恐怖感を覚える場合は警察への通報も視野に入れ、その準備もしておきましょう。

電話相談を受けている委員の先生方も重圧の中で対応しています。会員各位が安心して診療に専念できるためにも、委員の先生方の心の重荷を減らすためにも、ちょっとしたカルテ記載の手間を惜しまないことをお願いします。

理事会報告

第10回理事会

日 時 平成29年12月21日 (木) 16時

場 所 茨城県歯科医師会館 会議室

報告者 増本 章典

1. 開 会

2. 会長挨拶

3. 報 告

- (1) 監査報告
- (2) 一般会務報告
- (3) 退会について
- (4) 後援依頼について
 - 県央地区認知症を語る会「認知症フォーラム in 水戸」
 - 県作業療法士会「市民公開講座『身体を使った遊びと生きる力』」
- (5) 県南歯科医師会補助金支給事業報告書について
- (6) 後援依頼【水戸市歯科医師会】市民公開講座について
- (7) 疾病共済の支払いについて

珂北地区	1名	25日
東西茨城地区	1名	19日及び120日
鹿行地区	1名	60日
土浦石岡地区	1名	16日
- (8) 12月開業予定の歯科医院について
- (9) 第1回東京オリンピック・パラリンピック 歯科委員会報告について
- (10) 県医療推進協議会「国民医療を守るための国民運動」決議文
- (11) 各委員会報告について
 - 厚生委員会、地域保健委員会、社会保険委

員会、学校歯科委員会、専門学校、学術委員会

4. 協議事項

- (1) 入会申込みの受理について
 - 伊藤 佑樹氏 (珂北地区)、三木 雄斗氏 (県南地区)、鈴木 規子氏 (準会員)
 - 上記3名の入会を受理した。
- (2) 【県衛生士会】平成29年度運営補助金について 標記運営補助金について承認した。
- (3) 女性歯科医会補助金申請【29年度】について 標記補助金申請について承認した。
- (4) 補助金申請【水戸市歯科医師会】市民公開講座について 標記補助金申請について承認した。
- (5) 会費免除申請について 標記会費免除申請について承認した。
- (6) 平成30年地区新年会の役員派遣について 森永会長に一任することについて承認した。
- (7) 平成30年度委員会事業計画及び事業予算(案)について 事業計画及び事業予算について承認した。
- (8) 難病医療費助成制度について 標記助成制度について会員に周知する事について承認した。
- (9) 第26回歯科医学会 講師謝礼 (追加) 標記講師謝礼について承認した。
- (10) 第2回(公社)茨歯会県民フォーラム 開催(案)について 開催すること、講師(垣添忠生先生、大谷幹伸先生)について、講師料について承認した。
- (11) 日歯生涯研修事業への認定申請「抗菌薬の適正使用研修会」

標記について承認した。

(12) 茨城県よい歯の学校表彰「歯科医師会長賞」について

選定基準の変更について承認した。

歯科医師会長賞表彰校について承認した。

会務日誌

- 12月21日 日本スポーツ・健康づくり歯学協議会実行委員会及び第4回茨城スポーツ・健康づくり歯学協議会プロジェクトチーム委員会を開催。日本スポーツ・健康づくり歯学協議会懇親会、二次会、マウスガード講習会、次年度事業計画・予算案について協議を行った。
出席者 森永日本SHP歯学協議会実行委員長ほか12名
- 12月21日 第3回業務・会計監査を執行。業務（9月1日～11月30日）、会計（平成29年度現況）について監査を実施した。
出席者 鈴木監事ほか7名
- 12月21日 第10回理事会を開催。入会申込みの受理、県衛生士会平成29年度運営補助金、女性歯科医会補助金申請、水戸市歯科医師会市民公開講座補助金申請、会費免除申請、平成30年地区新年会の役員派遣、平成30年度委員会事業計画及び事業予算（案）、難病医療費助成制度、第26回歯科医学会 講師謝礼、第2回（公社）茨歯会県民フォーラム開催（案）、日歯生涯研修事業への認定申請「抗菌薬の適正使用研修会」、茨城県よい歯の学校表彰「歯科医師会長賞」について協議を行った。
出席者 森永会長ほか18名
- 1月 9日 新春の幕開けを祝う茨城新聞社主催「千鳥会」が水戸プラザホテルにて開かれた。
出席者 征矢副会長
- 1月10日 第9回社会保険正副委員長会議を開催。第9回委員会、指導、委員会での改定説明、疑義、理事会、審査内容について協議を行った。
出席者 榊社会保険部長ほか2名
- 1月10日 第9回社会保険委員会を開催。疑義、各地区保険説明会日程、3月委員会の改定説明について協議を行った。
出席者 榊社会保険部長ほか18名
- 1月11日 第3回学校歯科委員会を開催。基礎研修会、よい歯の学校表彰・歯科医師会長賞の表彰基準について協議を行った。
出席者 千葉学校歯科部長ほか7名
- 1月11日 未就業歯科衛生士復職支援のための講習会を古河市「わたなべ歯科クリニック」にて開催。キュレッタージ、超音波スケーラー、エアフローと復職の講話を行った。
受講者 1名
- 1月12日 茨城県警察視閲式が県警察学校にて行われ、交通機動隊白バイ操輪訓練等のアトラクション、部隊行進等のデモンストレーションが行われた。
出席者 森永会長
- 1月12日 県医師会の新年賀詞交歓会が水戸プラザホテルにて行われた。

出席者 森永会長ほか1名

1月16日 改正職業安定法説明会がワークプラザ勝田にて開催され、改正職業安定法の概要ほかについて説明が行われた。

出席者 須能

1月16日 内外情勢調査会1月例会が水戸京成ホテルにて開催された。

出席者 森永会長

「第38回 全国歯科保健大会」報告

地域保健委員会 土屋 雄一

平成29年11月11日（土）、富山県民会館において、「よく噛み、よく食べ、よく生きる。」－健康寿命延伸はお口から－のテーマのもと、第38回全国歯科保健大会が開催されました。本会からは、森永和男歯科医師会会長、北見英理理事、志村俊晴先生（日本歯科医師会会長表彰）と土屋が出席いたしました。



まず、城川和夫大会実行委員会副会長（富山県歯科医師会副会長）による開会宣言が行なわれました。

続いて、山崎安仁大会実行委員会委員長（富山県歯科医師会会長）、加藤勝信厚生労働大臣（代理）、堀憲郎日本歯科医師会会長、石井隆一富山県知事、森雅志富山市長（代理）と挨拶が行われました。

歯科保健事業功労者表彰では、厚生労働大臣表彰（多年にわたり歯科保健事業に携わり、地域における公衆衛生の向上のため著しい功績のあった個人および団体の表彰）個人58名と4団体、日本歯科医師会会長表彰（地域社会の歯科保健衛生の

普及向上、改善および意識高揚等、実践活動に著しい功績のあった者、きわめて困難な条件の下で献身精励、顕著な功績があった個人および団体の表彰）個人53名と2団体に対し、表彰が行われました。茨城県歯科医師会からは、鈴木潤一先生（北見先生が代理出席）が厚生労働大臣表彰、志村俊晴先生が日本歯科医師会会長表彰を受けられました。お二人の先生方、誠にありがとうございました。



続いて行われた、平成29年度親と子のよい歯のコンクール表彰では、全国審査で優秀賞に選ばれた6組12名の親子が表彰されました。本県代表の

東美和・勇次郎様親子は、残念ながら入賞することはできませんでした。

次に、次期開催県である栃木県の山本圭子保健福祉部長（代理）が挨拶を行いました。

次に、特別公演として、「長寿社会を笑顔で過ごす～大人の学びで見つけたヒント～」と題して、女優・戸板女子短期大学客員教授である菊池桃子氏による講演が行われました。

次に、「健康寿命延伸に向けて」のテーマのもと、山崎安仁富山県歯科医師会会長がコーディネーターをつとめられ、シンポジウムが行われました。シンポジストとして、前田彰久富山県厚生部長が「富山県での“とやま未来創生戦略2017”において、県民一人一人が健康で共に支え合い安心して暮らせる社会を形成するために健康寿命日本一をめざした県民の望ましい生活習慣・健康づくりの推進への取り組み内容等について」、戸邊一之富山大学大学院医学薬学研究部内科学第一講座教授が「肥満や糖尿病にかからない、かかったとしても軽いままにとどめておくことが“健康な長生き”に繋がる、肥満や糖尿病の予防として

“よく噛み、よく食べ、よく生きる”について考える」、堀憲郎日本歯科医師会会長が「歯科医師会の立場から、口腔の健康と全身の健康の関係や、口腔健康管理の有用性を示すデータについて説明し、私たちが目指している超高齢社会における歯科医療の新しい役割と責任について」と各々の立場から講演されました。

最後に、「歯と口腔の健康と機能を維持・向上することの重要性が、健康寿命延伸のキーポイントであること、健康寿命を延伸し生き甲斐を持って生涯を健康に暮らしてゆくために、歯科口腔保健の充実を確たるものとする事は不可欠である、すべての人のライフコースにおけるきめ細かな口腔から始める健康管理を通して、健康長寿で心豊かな社会の構築に鋭意努力する」などとする大会宣言（日本歯科医師会高野直久常務理事）を採択し、次回開催県である栃木県歯科医師会宮下均会長に大会旗を引き継ぎ、野田修大会実行委員会副委員長（富山県歯科医師会副会長）による閉会宣言にて第38回全国歯科保健大会は閉会となりました。

「禁煙支援研修会・生活習慣病歯科対策研修会」報告

第1部 禁煙支援研修会

「意識を変え、行動を変え、環境を変えよう」
茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター
天貝 賢二 先生

地域保健委員会 大里 一

平成29年12月7日（木）、土浦市の県南生涯学習センターにて禁煙支援研修会が開催されました。上記演題のもと、禁煙治療・喫煙防止教育の

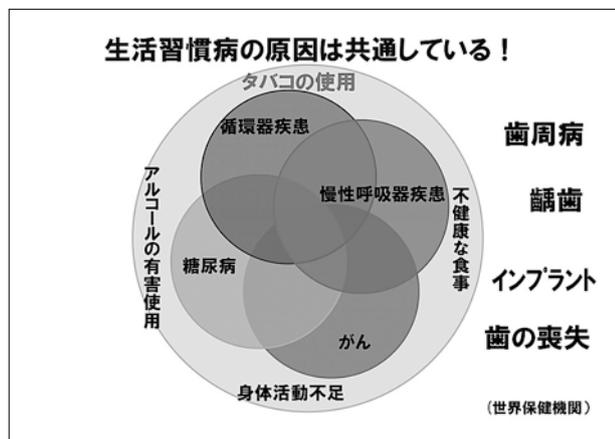
第一人者で、喫煙対策に積極的に取り組んでおられます茨城県立中央病院の天貝賢二先生を講師にお招きしました。



今回は、最近のたばこ事情やその対策についてご講演いただきましたので、報告させていただきます。

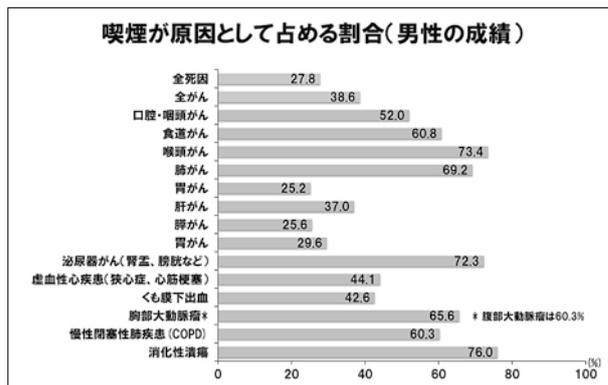
たばこの煙には4000種類以上の化学物質が含まれていますが、そのうちの200種類以上に有害作用があり、約60種類には発癌性があるとされています。喫煙が原因とみられる癌患者であっても、早めに禁煙できていれば癌の発症を遅らせられた可能性があり、若いうち、軽症のうちに医療がうまく介入できていればより長生きできたであろう症例がたくさんあります。若い人も多数受診する歯科は、まさに禁煙支援の格好の場と言えます。

生活習慣病の危険因子として、喫煙以外にも不健康な食事・運動不足・アルコールの摂取過多などがあり、これらは循環器疾患・糖尿病・癌の原因になっていますが、これに喫煙が加わると慢性呼吸器疾患のリスクまで加わってしまいます。また、喫煙者は飲酒量の増加、運動不足になりがち、朝食の欠食、濃い味付けを好むなどのデータもあります。



たばこの発癌性については、国際癌研究機関 (IARC) がアスベスト・ホルムアルデヒドなどと共に、人に対する発癌性を示す十分な根拠があるグループ1 (計107種) としています。

特に喉頭癌・肺癌・泌尿器癌の原因の7割前後が喫煙とされ、口腔癌・咽頭癌・食道癌もその原因の5割以上を喫煙が占めています (男性の場合)。



癌以外では胸・腹部大動脈瘤や慢性閉塞性肺疾患・消化性潰瘍の原因の6割以上を喫煙が占めています。

慢性腎臓病の危険性では非喫煙者・禁煙者に比べて喫煙者は2倍以上になります。

メタボリックシンドロームについては、喫煙の量が増えるにつれてその発症リスクが上がっていくのが明らかになっていて、1日30本以上吸うと非喫煙者の1.6倍になります。

喫煙とメタボリックシンドロームが組み合わさると特に循環器疾患発症のリスクが上がりますが、男女とも喫煙のみまたはメタボのみの場合が2倍強なのに対し、その両方が組み合わさると男性が4倍近く、女性は5倍近くに上昇してしまいます。

歯科においてはまず歯周病への悪影響があげられ、そのリスクは1日10本以上の喫煙で3倍、1箱 (20本) 以上で5倍に跳ね上がります。その原因として、たばこの煙に含まれるニコチンの強力な血管収縮作用があり、歯肉が炎症を起こしても出血などの症状が抑えられてしまう結果免疫力の

低下を引き起こし、気が付かないうちに歯周病が重症化しやすくなります。煙に含まれる一酸化炭素も酸素不足を引き起こし、口腔内の免疫作用を著しく低下させてしまいます。タールは歯の露出面に黒褐色に沈着し、歯周病の原因となる歯垢や歯石が取れにくくなってしまいます。血流の低下は唾液量の低下を引き起こし、口腔内の細菌が増加してしまい、齲蝕の増加や口臭にもつながります。歯肉の退縮や唾液量の低下は義歯の不適合の原因になります。喫煙による血行障害や歯周組織の脆弱化はインプラント治療の失敗にもつながり、そのリスクは非喫煙者の7倍にもなります。

2020年に東京オリンピックを控えて、日本の受動喫煙対策が問題になっていますが、WHOによると4段階評価の最低レベルとなってしまっています。テレビCMで盛んに流れている分煙では受動喫煙の数値があまり改善されないことが明らかになっており、やっかいなことに有害物質は副流煙の方が多いためです。たばこの煙は分煙したとしても、ドアの開閉で漏れてしまうし、店員の受動喫煙は防止できません。また、たばこの有害物質が喫煙者の衣服等に付着し、その後ゆっくりと発癌性のあるガスに変化して、病気の原因となる三次喫煙が問題になっています。これは煙のない受動喫煙と言われ、乳幼児がより悪影響を受けると危惧されています。全面禁煙を導入すると売り上げへの影響を懸念する飲食店もありますが、むしろ非喫煙者の来店が増加したケースも多々あります。公共の場所のすべてを屋内全面禁煙にする法律等を施行している国は2014年時点で49か国（13億人）に及び、日本も同様の対策が求められています。

ここ数年で急速に普及してきた新型たばこには電子たばこと加熱式たばこがあります。

電子たばこについては日本国内ではニコチン入りのリキッドは認められていませんが、原液中のエチレングリコールが加熱分解されて発癌性のあるホルムアルデヒドに変化してしまう問題があり、通常のたばこより有害な製品も存在するので、規制が求められています。

加熱式たばこを使用する人の17%は喫煙だと思っていないというデータがありますが、実際には紙巻きたばこの8割以上の量のニコチンが含まれ、発癌性物質も検出されるので禁煙にはならないという事実をアドバイスする必要があります。ただ、喫煙者がこれらの新型たばこに切り替えるのは、自分の健康や他人への影響を考えてのことである場合が多く、禁煙勧奨のチャンスともいえます。

喫煙とは、ニコチン依存症という病気であり、病気であるならば医療の介入が必要になります。ここ数年で「禁煙外来」を行う施設が増加しており、ニコチン入りの貼り薬や飲み薬を使用した保険治療が受けられます。3ヶ月・5回の通院で約2万円の治療費はたばこ代より安く、成功率も高いそうです。以上のことから、たばこはもはや嗜好品とは言えず、最前線の我々歯科医師から喫煙者へのよりいっそうの声かけが求められています。

禁煙補助剤の種類の特徴

名称	入手場所	特徴	ニコチン依存症
ニコチンガム	薬局、薬店	短時間で禁断症状が抑えられる。間違ったかみ方をすると胃の不快感が出やすい。	低～中依存の人向き
市販のニコチンパッチ	薬局、薬店	パッチを貼るだけで簡単。突然の欲求に対処できない。皮膚がかぶれることもある。	低～中依存の人向き
医療用ニコチンパッチ	医療機関	高用量のものが使え、24時間貼るので、起床時も含めて禁断症状をより抑える。	中～高依存の人向き
内服薬	医療機関	ニコチンを含まない。服用中に喫煙しても満足感が少なく再喫煙しにくい。	中～高依存の人向き

《厚生労働省 禁煙支援マニュアル(第二版)、2013年4月》

第2部 生活習慣病歯科対策研修会

「糖尿病重症化予防のための減量プログラムと歯科健診の実際」 ～はらすまダイエットのご紹介～

日立健康管理センタ (副センタ長) 中川 徹 先生

地域保健委員会 葛城 康維

第2部は上記の演題で中川先生に講演いただきました。



はじめに、1998年「沖縄長寿県宣言」をして全国4位だった沖縄県を例にあげて、2003年の男性の平均寿命が全国26位になり、2013年には30位まで落ちたこと、20～69歳男性の肥満者割合の高い都道府県で第1位となり、30代40代での「心筋梗塞」「脳梗塞」「脳内出血」での男性死亡率が全国でワースト5位にランクされていることをあげ、ダイエットなどの生活習慣病対策が急務であることを説明されました。

次に、日常的に介護を必要としない自立した生活ができる健康寿命について触れ、健康寿命を短くする原因は「骨折と脳梗塞」そして「認知症」であり、これを予防することが大切で心筋梗塞（動脈硬化性疾患）についてはその危険因子が「肥満」「高中性脂肪」「高血糖」「高血圧」プラス「喫煙」の5つをあげていました（特に喫煙が発症のリスクを上げるとのことを力説されておりました）。

本日は糖尿病と内臓脂肪の話がメインテーマ

で、どうして内臓脂肪が増えると体に悪いのか、という説明と内臓脂肪を減らすための「はらすまダイエット」についての話でした。

皆さんメタボや肥満が体に悪いことはよくわかっていると思います。普通の大きさの内臓脂肪（脂肪細胞）からは、アディポネクチンという超善玉ホルモンが分泌され、糖尿病、高血圧、動脈硬化、の予防と改善に役立っているそうです。しかし内臓脂肪が3～4倍に膨らむとアディポネクチンの分泌量が大幅に減り、悪玉生理活性物質の分泌量が増えインスリンの効きが悪くなり、血糖値が上昇し、これを放置しておくと糖尿病へと移行するのです。

この内臓脂肪を減らすためのプログラムが、中川先生が研究、考案した「はらすまダイエット」です。「はらすま」の名称は (Hitachi Associates Life Style Modification & Action) HALSMA からきているそうですが、先生は「なんのことはない！はらすまに！」と、おっしゃっていました。賢く痩せよう！という事です。

SMART

- S**pecific できるだけ『具体的』な
- M**easurable 『数字』にしましょう
- A**ction-oriented 『行動』に向かうように
- R**ealistic 目標は『現実的』であり
- T**ime-bound 『時間』は区切りましょう

「はらすまダイエット」は「頑張らない、でも諦めない」をコンセプトに忙しい人でも無理なく続けられるダイエット手法で、90日間で体重の5%を減量することを目標に、100kcal単位に減量メニューを小分けした「100kcalカード」を使って無理なくダイエットをしていきます。後半90日間で維持することを目指します。90日間で達成出来なくても、180日かけて達成すれば問題ありません。

「はらすまダイエット」成功のためには、運動・栄養・禁煙、のバランスのとれたメタボ対策が必要で、運動もダイエットも自分が決めて選択する「セルフケア」が一番大切であり、周囲の家族や友人そしてドクターが、本人が気づくまで支援してあげることが必要である！というのがこのダイエットのまとめでした。

次に、糖尿病予防のための歯科健診の実際ということですが、現在、日立健康管理センターでは、大阪大学歯学部（村上信也先生）とライオン（株）が「歯周病と全身健康状態が相互に与える影響を明らかにする」という目的で、共同研究プロジェクトが進行中であり、人間ドック受診者の1000名を対象に2014年から2016年それぞれ5日間検診を実施、2017年も12月4日～8日のドック受診者350名に対して歯周ポケット測定がライオンの衛生士さんによって実施されました。

さらに一昨年の10月からは、多項目唾液検査システム（AL-55）を用いて（口腔内カメラを併用）人間ドック受診者全員に唾液検査を行っており、スクリーニングの有用性が示唆され、歯科受診勧奨に役立っているとのことでした。

同センターでは、全身健康状態と歯周病の関連性

をテーマに研究中であり、口腔健康の維持増進が全身の健康状態に好影響を与えることを証明していきたいとのことでありました（糖尿病重症化の予防に繋がると考えています）。

最後に、世界で一番最初に超高齢化を迎える国ですから、日本でやっていることが世界のリーディングモデルになるので、私たちがこれをどう賢くしのぐかが「カギ」になると思う。大事なものはイノベーション（社会通念意識の改革）がないとダメ！と中川先生がおっしゃっていました。我々歯科医師も「新機軸のサービス」や「新たな価値観の提案」を常に念頭において歯科医療に携わって行きたいと思います。

認知行動科学に基づく保健支援

認知行動科学	保健支援の工夫
①目標設定	具体的に
②自己監視法	記録すること
③オペラント強化法	成功⇒報酬系回路活性化
④刺激統制法	自分のむねに手をあてて・・・
⑤反応妨害	代替行為を自分で考える
⑥食べ方の変容	ゆっくりよく噛んで
⑦社会技術訓練	空気を讀んだ断り方の練習
⑧認知再構成法	セルフトークを充実
⑨再発防止訓練	OKラインオーバーの対処
⑩社会的サポート	家族・配偶者・友達・グループ

Vintage Society

Vintage：ワインの製造工程を表すことば “熟成”

- 高齢者がいきいきとし、多世代と緩やかに交わり『社会の力』となる社会
- 高齢者が“働く”“学ぶ”“遊ぶ”“休む”の最適バランスを自由にデザインできる社会
- 高齢者を含むすべてのひとが自立し多様な生き方を實現、多世代のひとびとや社会とつながる中で高齢者の経験や知見で貢献している社会

超高齢化 = 『機会』

高齢化フロントランナーのわが国 ⇒ 世界のリーディングモデル

社会通念・意識の変革
働き方の変革
産業創出・進行の変革

医療+管理委員会 だより

平成29年度 日歯認定歯科助手講習会閉講式

医療管理委員会 坪 宏唯

平成29年度医療管理委員会の事業の一環として、日歯認定歯科助手講習会が開催されました。平成29年5月25日（木）の開講式に始まり同年12月14日（木）まで、約7か月間、全9回にわたり行われました。12月14日の最終講義終了後、16時から茨歯会館3階講堂にて厳粛な雰囲気の中、受講生43名が参加して閉講式が執り行われました。

閉講式は、初見謙介委員長の司会進行の下、まず茨城県歯科医師会会長の森永和男先生より祝辞をいただきました。忙しい中、9回の講習会に参加したことで歯科医療に対する理解を深め、自信を持って仕事に従事していただきたいとお話しされました。続いて、大字崇弘医療管理部長から、挨拶をいただきました。長時間の講義、実習で学んだことを生かして医療に従事していただきたいと思います。



受講生達は、約7か月間、真剣に講義を受講し、口腔衛生指導・ブラッシングや技工の実習にも取り組み、AEDの使用方法や救急蘇生のトレーニングなど有意義な講習会となったことと思います。そして9回の講義を終え、乙種第一歯科助手と認定されました。

受講者の感想文を拝見して、医院においてわからなかったことや知らなかったことを理解し、新たに沢山の知識を得て、とても勉強になったと書かれてありました。歯科助手として、医療従事者として、仕事に誇りを持って頑張ってもらいたいと思います。この講習会を機に、これからきっと医院の戦力になってくれることと思います。少しでも医院の向上に尽力出来れば、我々医療管理委員にとってもこの上ない喜びとなります。

またこの講習会は、日歯が主管とする事業ですが、実際の企画・運営は県歯に任されており、医療管理委員を始め、外部講師や技工士科・衛生士科の諸先生方、救急普及協会の方々の協力の元に成し得たものです。また、この講習会を運営するにあたり、様々な事務作業、準備をしてくださった茨歯会事務局の方々、診療があるにもかかわらず、スタッフを送り出してくださった各医院の先生方、皆様に感謝を申し上げてご報告とさせていただきます。また、来年度も開催予定ですので、是非ご活用ください。

最後に、医療管理委員会には、他にも沢山の取り組みがあります。以前から年2回開催されているスタッフセミナーは、参加したスタッフが医院に戻ってから、仕事への意欲、患者様への接し方がとても良くなったなど高評価を頂いております。また、近年、歯科衛生士の復職セミナーにも力を入れています。水戸地区だけではなく、各地区においても開催しています。会員の皆様へポス

ターを配布していますので、是非医院に掲示して
いただきますよう、よろしくお願いいたします。
また、HP等でも、募集をしていますので、閲覧し
てください。これからも少しでも歯科衛生士不足
を改善出来るように尽力していきます。



歯科助手講習会を終えて

35番 久松 麻衣

約半年間たくさんの事を学ばせて頂き、本当にありがとうございました。

歯科助手として歯科医院で働き始めて一年目です。医院長から日歯認定歯科助手講習会という勉強会のお誘いがあり、参加する事を決めました。

元々、医療関係に興味はありましたが初めての経験ばかりで覚える事も多く、「歯」そのものについて深く考える事もなく毎日業務に勤めていました。

講習会当日、とても緊張しましたが、自己紹介から始まり他の医院も一人で参加している方が多く安心したのを覚えています。隣の席の助手さんとコミュニケーションを取ったり、大きな声で発声練習をしたりしました。

私の医院では助手と受付を兼務しているので、患者さんと接する機会が多く、待合室では不安に思っている事を話して下さる方もいます。自分も痛みなどに強い方ではないので、患者さんと同じ立場になって話を聞く事を日々心がけています。その為に医院全体の雰囲気、環境、清潔感も大切で必要な事だと私は思っています。

医院ではもちろん患者さんから見える所、見えない部分まで清掃する事に力を入れ、身だしなみも大事な要素だと思うので気遣っています。少しでも不安に感じている患者さんの緊張をほぐせたらいいなと思っています。

そして今回救急普及協会の講師の方が来て下さり、AEDの使い方について実技をしました。

AEDについては自動車の免許を取得した際に少しだけ授業があった程度で、どんな音声が鳴るのか、どんな物が入っているのか全く知りませんでした。もし実際にAEDを使う場面に遭遇したら…と思うと恐怖心がありました。見て見ぬふりをして、人まかせにしてしまうだろう。とも思っていました。

しかし、実践を通してAEDが普及される前に亡くなった方、AEDを使って一命を取りとめた方のスクリーンでの動画を観た時、涙が出ました。命の大切さを改めて感じる事が出来ました。

私はこの半年間の授業を通して、歯科助手としての心得、口腔の歯の知識、たくさん勉強させて頂きました。

「歯」についてはとても奥が深く、業務でアシスタントをしている時も今は何をしているんだろう、次は何を準備していれば治療が円滑に行われるか考えて行動する、という事が少しずつ出来る様になりました。

以前よりももっと興味が湧き、先生や衛生士さんに分からない事も進んで聞く事が増え、歯科助手という仕事がより楽しく好きになりました。

学ばせて頂いた事を今後の業務に生かして日々努力し、勤めたいと思います。

歯科助手講習会に参加して

39番 橋本 瞳

私は、本年一月から歯科衛生士さんに誘われて歯科助手として働き始めました。

何も分からない状態から受付や現場でアシスタントにつくようになり、歯科医院の重要性を感じました。

歯科助手講習に通うようになり、現場で覚えた仕事のほかにもっと専門的なことを学べるようになりました。

いちばん衝撃的だったのは「歯周医学」です。歯周病予防が全身状態と関係している。そのため、口腔内治療と身体的治療を併用して行うことが望まれていることを知り、患者さんとの会話に取り入れることができるようになりました。自分も気をつけるべきであり、私にとって知ることができて最も嬉しかったことです。

実習での染め出しの時、私のプラークスコアが一桁台だったことは自分でも驚きましたが、勤務先の院長や衛生士さんにブラッシングのコツを教わっておいてよかったと、鼻が高かったのを覚えています。一時の結果に満足せず、これからも保てるよう私自身も努力し、患者さんとブラッシング法の会話ができるようにしていきたいと思っています。

それから、歯科技工についての講習や実習です

が、私の勤務先では外注のため、知らないことが多くありました。印象採取から石膏注入まで一連の動作で行うだけでなく、模型を本当に丁寧に作成することが技工士さんに対してより多くの情報を伝えることだと知り、慎重に作成するようになりました。

講習会で習ったことが翌日から仕事にダイレクトに生かせることに、助手でありながらもやりがいを感じました。

年齢に関係なく、患者さんの口の中を守ることによって患者さんの元気を支える一つのお手伝いになれたらいいな、と思います。

これから先も改めて、患者さんの立場で考えることも忘れず、自分も通いたいと思える歯科医院作りを目指し、笑顔で対応し、院内の衛生環境作りに力を入れ、患者さんの体調や気分などにも気を配れる歯科助手を目指していこうと思います。

最初は衛生士さんに誘われて仕事を始め、歯科助手講習会も衛生士さんの勧めでしたが、いいきっかけになりました。

有意義な講習会を受講できたことに、講師の方々には感謝でいっぱいです。本当にありがとうございました。



平成29年度茨城県警察歯科協議会 および個人識別実習（主催：茨城県警察歯科協議会）

日時：平成29年12月3日（日）

個人識別実習 10：00～12：00

協議会 12：15～13：00

場所：茨城県歯科医師会館 3階 講堂

防災危機管理小委員会 櫻川 次郎

平成29年12月3日（日）に今年度の警察歯科協議会が行われました。午前中に実習を行い、その後協議会へと移る流れです。

今年度の実習においては、現場での資料作成の中でも写真撮影に特化した内容としました。これは参加した先生方（特に一度も個人識別を行ったことない先生）と警察の鑑識の方が実際の現場で戸惑わないように、そして実習を通じて少しでも顔の見える関係を作れるようにと考えたものです。

基本的な「デンタルチャートの作成方法」「レントゲン撮影法」「口腔内写真撮影について」の講義を20分程行った後に、実習を始めました。



当初、各班ともご遺体役を誰が行うかで戸惑う



場面もありましたが、一度始まってしまうと、戸惑いも少なくスムーズに進行していきました。今回の実習に関しては、事前に現場での経験が豊富な境警察署警察歯科医の三浦先生のご意見も参考にさせていただき、なるべく鑑識の方が関われるように努めたのもうまくいった原因の一つではないかと思っています。

もちろんすべてが良かったわけではなく、清潔域と不潔域の境界線のあいまいな部分などについては、奥羽大学歯学部生体構造学講座法歯学教授花岡先生よりご指摘を受ける場面もありました。注意されたことは来年度以降の協議会で活かしていきたいと考えています。

茨城県では、歯科医によるご遺体の個人識別数は減少傾向にあります。これは、普段の捜査においては指紋、DNA鑑定で判別できなかったものに関して一番最後に歯牙鑑定を行う傾向があるからです。日本全国においてその傾向にあるのかと思います、少し調べてみたのですが、どうやらそうではないようです。宮城県や山形県のように東日本大震災において警察との関係が密になったところや、10年以上前からその地域で少しずつ関係を強化してきた千葉県、神奈川県（ここは神奈川県歯科大学が特に力を入れているようです）、大阪府、東京都の中では千代田区、大田区などにおいてはそれなりの需要があるようです。これはその地区の先生の先生方の努力の賜物であることは否めません。ケースによっては歯牙鑑定の方が鑑定スピードが速いため、そのことを分かって下さる鑑識の方がいる所轄署では、警察歯科医の優先順位が高いようです。

ひょっとしたら、これを読んで下さっている先生方の中には、歯牙鑑定はしなくて済むのなら、しなくていいのではと考える方もいらっしゃるかもしれません。ただ私は、どうしても多数のご遺体が出てしまう可能性のある大災害（これは地震だけでなく航空機事故などの人災も含めて）に対して、人は備えておかないといけないのではないかと考えてしまうのです。そして歯科医師にはその特性を活かすスキルがあり、それは普段から意識していないといざという時に使えないことになってしまうと思うのです。

そのために、私は警察関係、海上保安庁がもう少し警察歯科医と「顔の見える関係」を築ける方法を探しています。これを読んで下さり、「こんな方法がありますよ」というご意見がありましたら、ぜひご一報ください。

最後になりましたが、今回の実習に際してご協力いただいた、花岡洋一教授、小林克男先生、大

澤賢祐先生、三浦雅美先生、村居幸夫先生、防災小委員会の先生方、参加して下さった警察歯科医の先生方、警察および海上保安庁関係の方々、大変ありがとうございました。



協議会について

実習後、0：15より茨城県警察本部刑事部長 風見和幸様ほか、茨城海上保安部次長 川口洋充様ほかを迎え、協議会が始まりました。

報告事項として、

- (1) 顧問・参与の委嘱について
- (2) 平成28年度事業報告・決算報告
- (3) 平成29年度事業計画・予算
- (4) 警察歯科協議会活動報告

(H.28.12.1～H.29.10.31.)

第16回警察歯科医会全国大会

口腔内所見採取実績報告

- (5) 警察歯科医の委嘱について

の事柄について報告が行われました。

最後に未解決事件に関する情報提供のお願いとして、平成12年牛久市で発生した少年被害強盗致死事件について、参考動画を交えて茨城県警察本部捜査第一課長 谷津成久様より説明があり、閉会となりました。

この動画に関しては、YouTubeの茨城県警察公式チャンネルに載っていますので、ご協力よろしく申し上げます。



茨城県児童虐待早期発見歯科プロジェクトチーム講演会報告

『子ども虐待の根絶に向けて』

—情報の提供と共有における問題点—

講師：奥羽大学歯学部生体構造学講座法歯学 花岡 洋一 教授

児童虐待早期発見歯科プロジェクトチーム 椎名 和郎

平成29年12月17日（日）茨城県歯科医師会館において、茨城県児童虐待早期発見歯科プロジェクトチーム主催により上記講演会が開催されましたので報告します。



連日のように児童虐待による悲惨な事件が報道されています。今でも10日に1人の割合で尊い子どもの命が虐待によって奪われています。

子どもへの暴力に対して「これは虐待ではなく躰だ」ということを言われることがあります。躰なのか、虐待なのか、という問題に対して、花岡教授はマルトリートメントの概念を普及することが大切だとおっしゃっていました。

欧米ではマルトリートメントという概念が一般

化しています。マルトリートメントとは、大人の子どものに対する不適切な関わりを意味していて、虐待より広い概念です。マルトリートメントは次のように定義づけられます。

「18才未満の子どもに対する、大人あるいは行為の適否に関する判断の可能な年齢の子ども（およそ15才以上）による身体的暴力、不当な扱い、明らかに不適切な養育、事故防止への配慮の欠如、ことばによる脅かし、性行為の強要などによって、明らかに危険が予測されたり子どもが苦痛を受けたり、明らかな心身の問題が生じているような状態」のような子どもは保護しなければならない。従ってそれが躰だと主張しても、子どもが苦痛を受けていたら保護対象になるというのがマルトリートメントの概念です。

「いじめ」と「体罰」と「虐待」の違いについては以下のようになっています。

「いじめ」はいじめ防止対策推進法により、「いじめがあった場合は学校が警察と首長に連絡しなければならない」と定められている。

「体罰」は学校教育法の11条に「ただし体罰をあたえることはできない」という記載がある。

「虐待」は児童虐待の防止等に関する法律（児童虐待防止法）に以下のような記載がある。

● 児童虐待の早期発見努力

同法第5条において、学校・病院等の教職員・医師・保健師・弁護士等は、児童虐待に関して早期発見に努めなければならない。

● 児童虐待の通告義務

同法第6条において、児童虐待を受けたと思われる児童を発見した者は、速やかに福祉事務所・児童相談所（実際には福祉事務所は対応できないので児童相談所）に通告しなければならない。

日本学校歯科医会では、「虐待を通告するか否かは学校が決定することで学校歯科医が単独で断定しないよう配慮することが大切である」としているが、虐待を受けたと思われる（確定する必要はない）児童を発見した者が通告すると法律で定められている（※平成29年3月に開催された学校歯科医基礎研修会では日学歯の見解をお話ししましたが、ここで訂正させていただきます）。

世代間連鎖、または世代間伝達と言われるものがあります。虐待をした親が「自分も同じように育てられたから自分の子どもにも同じようにした」というものです。親の愛情を知らないで育った子



どもが親になると、子どもに愛情を伝える事が出来ないので、虐待をしてしまうわけです。この負の連鎖を断ち切るために必要なのは、子どもの周囲にいる大人（教職員・医師・保健師・弁護士等）がそれぞれの立場でプロとしての役割を生かして連携して子ども達を助けることで、それを愛情として子どもに伝えていくことだそうです。その周囲の大人達の連携に必要な情報共有のために使われるのが虐待チェックリストで、虐待があるのかどうかを判断するためのものではないとのことでした。



〒310-0911 茨城県水戸市見和2-292
 公益社団法人
茨城県歯科衛生士会
 TEL・FAX 029-253-5807
<http://www.ibaraki-dh.net/>
 E-mail jimmu@ibaraki-dh.net

(公社)茨城県歯科衛生士会 県西支部 山本 真代

「歯科衛生士として仕事に対する思い」

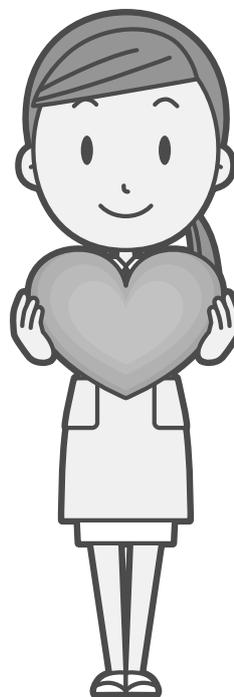
はじめまして。私は職歴18年の歯科衛生士です。
 現在、外来及び訪問歯科に携わっています。
 主な訪問先は、高齢者・障がい者施設、在宅です。
 業務内容は、口腔ケア、V E同行、嚥下リハ等です。

数か所のクリニックを経験させていただく中で、特に高齢者の方と関わりたいと思うようになりました。それは、様々な人生経験をされ、生き抜いてこられた方々に何かさせていただきたいと思ったからです。人生の終末期を迎えた方々に、歯科衛生士として、もっとできることはないか、考えるきっかけを日々いただいています。表情や食形態アップなど1つでも変化が見られた時には、とても喜びと、やりがいを感じます。

また、その喜びを多職種の方と分かち合える事もやりがいにつながります。

多職種連携に難しさを感じる事もありますが、施設スタッフさんへの勉強会などを定期開催し、情報を発信していくことの大切さも実感しています。

情報共有することにより、更に、施設スタッフさんなどと、より近い関係になれている気がします。



歯科衛生士は、ライフスタイルの変化により離職率も高いですが、働き方を変える事により、携われる機会はあると思います。今後も歯科衛生士として、歩みたいと思います。

この度は、現在のクリニックをはじめ、県西支部の皆様、今まで関わってくださった方々に、この場をおかりして、感謝申し上げます。ありがとうございました。



あなたを競馬に連れていきたい

(社) 珂北歯科医師会 野沢 正仁

GGTのバンマスの浅香先生からバトンを受けました。しばらくのお付き合いをお願いいたします。

さて、引き受けてはみたものの、どうしたものか、何の話をすればいいか悩むところですが、みうらじゅんのように人生の2/3はいやらしいことを考えていた訳でも無いので、皆様のお目汚しとにならないように努めさせていただきます。

北海道の日高地方に「サラブレッド銀座」と呼ばれる通りがあります。銀座と名が付いていても、大きなビルが建っていたり、赤いネオン青いネオンの間から顔の長いお姐さんがおいでおいでをしているわけではありません。広い道路の両脇を数キロにわたって、馬のそれも競走馬サラブレッドの牧場がはるか彼方に見える山の麓まで続いているんです。その広さと言ったら、東京ドーム（なんてベタな例え）〇〇個分（後で調べておきます）に相当します。その中をたくさんの馬が走ったり、草を食べたり、横になって寝ていたりそれぞれ思い思いのかたちで過ごしています。中には生まれて間もない仔馬が母馬の後をぎごちない足取りで一生懸命に追いかけている、そんな微笑ましい姿を見ることが出来ます。いつまでも見飽きることのない心安らぐ所です。

私が馬に興味を持ったのは、2006年12月24日中山競馬場で初めて競馬を観戦した時からでした。しかもその日は、名馬ディープリンパクトの最後



のレースの日でした。芝生の上を飛ぶように駆け抜けゴールするのを見たとき、思わず目頭が熱くなったのを覚えています。それから11年、2017年12月24日今度はディープリンの甥にあたるキタサンブラックが引退レースの有馬記念を制しました。これも何かの因縁かもしれません。最後まで残っていた観客と、そして馬主である北島三郎と大合唱もしてきました。素敵なクリスマスイブになりました。

中央競馬場は、北から、札幌、函館、福島、新潟、中山、東京、中京、京都、阪神、小倉、の10

の競馬場があります。それぞれ特徴のあるコース形態でそれなりにおもしろいのですが、もっと興味深いのが、各地のB級グルメで、ときには、レースを忘れてお腹一杯になって帰ってきたということもあります。10場のうち、小倉を除く9場は出掛けているので、今年こそはぜひとも小倉へ行って全場制覇をと思っています。

競馬場というと、荒っぽい物騒なイメージが今までありましたが、そんな事は全く無くて家族連れや若い女性同士で来ても安心して一日楽しめます。CMの影響もあるかもしれませんが、若者たちが増えています（と言うよりも、こちらが年を取ったということか）。びっくりしたのは、うちのかみさんが、競馬場でショールを落としてしまい慌てて探したけれど見つからず、インフォメーションに諦め半分届けたところ、すでに落とし物として届いていたということが2度あり、思わずヘエと唸ってしまいました（その帰り道、某アウトレットモールで、ベンチに置き忘れた傘は今だに戻ってきていません）。

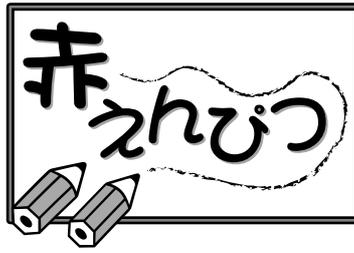
B級グルメで私の一押しは、新潟競馬場のもち豚の串焼きとソフトボール大の新潟コシヒカリのおにぎりです。具は鮭と筋子でのりを巻いて竹の皮で包んであり、いくつかある売店の内の1店でしか売ってない売り切れ必至の商品です。

まだまだ寒い日が続きますが、馬って寒いのは平気なので、負けずに一緒に頑張りたいと思います。よく競馬って儲かるんですか？と聞かれることがあります。そんなことを考えてはいけません。馬の美しく走るさまを見て満足して帰ってくればいいんです。まあどちらかと言うと建築関係かな（トントンby明石家さんま）。



Y君の好きな話にはなりませんでしたが、馬の話だけに、ヒンよくできたところで、お後と交代させていただきます。

バトンを渡すのは、県西にこの人ありといわれる同級生の吾妻周一先生にお願いいたします。



年が明け、家族で温泉旅行に行ってきました。家族みんな温泉大好きで毎年恒例になっています。今年は那須の黒磯温泉です。

宿に着くや、温泉に入りゆったりします。温泉に入ると日常の疲れも忘れ、心も体も癒されます。

そして、次の楽しみは夕食です。この宿は京会席料理が売りです。そこでふと疑問が湧き、「懐石料理」と「会席料理」の違いって何だろう？と。

「懐石料理」は、お茶会など亭主が来客をもてなす料理をいい、形式として一汁三菜だそうです。

「会席料理」は、一般に宴会料理とされ、本膳料理や懐石料理などをアレンジしたものとされていて、一般的に多いのが会席料理だそうです。

日本語って、難しい・・・

(幸)

年が明けて、まだ正月ボケを引きずっているが、もうすぐ平昌オリンピックが始まる。冬季オリンピックといえば、その昔長野オリンピック滑降予定コースを滑ったことがある。八方尾根スキー場のかなりの急斜面であったが、広々とした気持ち

のいいコースだった。ただ、このコースを全速力で下る勇気はととも起きず、滑降選手の技術と勇気には恐れ入った。また、オリンピックコースを滑ったことがあると将来自慢気に話そうと思っていたが、結局本番では別のスキー場に変更になり、残念な思いもした。

そしてしばらくすると、モーグルがメジャーになり、ゲレンデにも軽いジャンプ台が見受けられるようになった。やってみようと思い、調子に乗って踏ん張ってジャンプしたところ、経験したことのない高さに驚き、尻もちをついた。その時は半年以上、尾てい骨を痛めていた思い出がある。やはり、上村愛子も恐るべしと思った。

安全なスポーツなどないが、スキーのジャンプしかり、スノーボードのハーフパイプ、フリースタイルスキー、ボブスレーなどのそり競技類など、思えば冬季オリンピックには見るからに危険な競技が多々ある。そんな勇気ある選手たちの頑張っている姿を見て、たるんだ気持ちを奮い立たせたいと思う。

(仁)



年末年始は、ここ数年変わらず大掃除で過ごした。去年は元日まで、今年は二日まで大掃除。何故か、前年で終わらないので新年に持ち越しとなる。毎年同じことを出来るのが「幸せ」と言うが、これが「幸せ」と思える様になるまで何回大掃除をするのかを考えるだけで、お雑煮の餅が喉に詰まる心地である。これからは、AIが多くなるが、

この大掃除の機械化・自動化はいつになるのだろう。それよりも、歯科治療がAIによる機械化・自動化になるのが先かもしれない。そのような治療行為に、「幸せ」を感じるものだろうか。そんな時代まで、現役で仕事をしていることが「幸せ」だろうか。

(コスモッコ)

原稿募集

身近な出来事から臨床まで皆さまのご意見・感想を載せてみませんか。

「茨歯会報」は会員皆さまの会誌です。臨床におけるヒントや趣味、旅の思い出など、また地区歯科医師会や同好会・同窓会の様々な活動（研修会、厚生事業）など何でも結構です。会報をフルにご活用下さい。

Eメールの投稿で結構です。形式はどんな形式でもかまいませんが、出来ればテキスト、ワード、一太郎、にてお送り下さい。

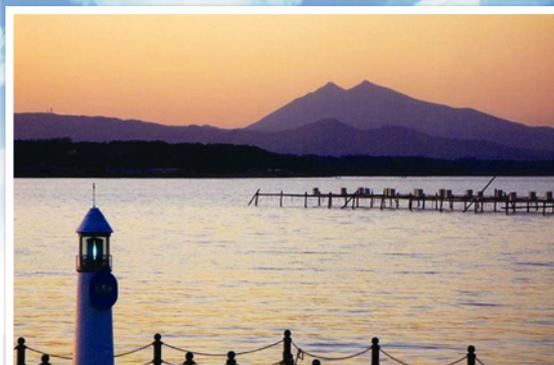
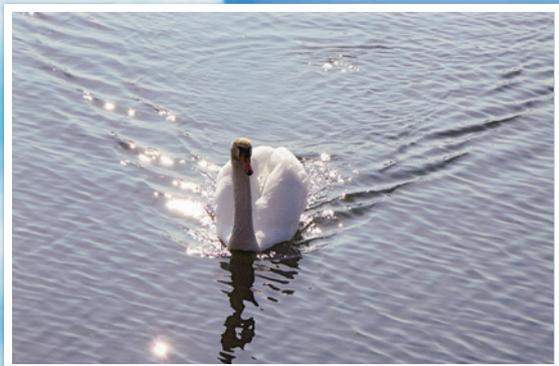
詳しくは、茨歯会事務局まで。

E-mail id-05-koho@ibasikai.or.jp

広報委員会

みんなの写真館

Photo
Gallery



(社)鹿行歯科医師会 出久根 崇夫

会 員 数

平成29年12月31日現在

支 部	会員数(前月比)
日 立	120 -2
珂 北	143 +1
水 戸	154
東西茨城	70
鹿 行	106
土浦石岡	176 +1
つ く ば	123 +1
県 南	179 +1
県 西	154
西 南	104
準 会 員	3
計	1,332 +2

みんなの写真館写真募集！

このページには皆さんからの写真を掲載できます。表紙写真に関連した写真、ご自宅の古いアルバムに埋もれた写真などをお送り下さい。

1種会員	1,155名
2種会員	46名
終身会員	128名
準会員	3名
合計	1,332名



Ibaraki Dental Association
公益社団法人 茨城県歯科医師会

茨 歯 会 報

発行日 平成 30 年 2 月
発 行 茨城県歯科医師会 水戸市見和 2 丁目 292 番地
電 話 029(252)2561~2 FAX 029(253)1075
ホームページ <http://www.ibasikai.or.jp/>
E-mailアドレス id-05-koho@ibasikai.or.jp

発行人 渡辺 進
編集人 柴岡 永子



この会報には、環境に配慮して植物油インキを使用しております。